第一回灰色文献国際会議の報告

坂本現意*, 小原満穂*

Report on the First International Conference on Grey Literature

SAKAMOTO Motoi, OBARA Michio

[著者抄録] 1993年12月13日～15日の3日間、アムステルダムRAIコンgresセンターで、EAGLE主催の「第一回灰色文献国際会議」が開催された。会議の開催主旨は、灰色文献に関する全ての情報の収集と整理およびこの分野における調査と研究の振興にある。会議は、全体セッションとクラスターセッションに分かれ、この2セッションは、さらに主題により3セッションに分かれた。灰色文献のプロデューサー、研究情報ネットワークとの関係、情報センターによる処理、灰色文献の需要と供給、灰色文献の利用と分析などのテーマについて発表と討論が行われた。

[著者付与キーワード] 灰色文献, 政府情報, 技術レポート, 研究情報ネットワーク, EAGLE, JICST

[Author Abstract] The First International Conference on Grey Literature (GL'93) was held on December 13-15, 1993. There was an almost inherent mission to collect and order the already existing body of knowledge in the field of grey literature and to promote investigation and research in this area. The Conference consisted of Plenary Session and Cluster Session which contained each 3 Sessions. It covered the producers of grey literature, relations with information networks, the processing by information centers, supply and demand of grey literature, use and analysis of grey literature.

[Keywords by Author] grey literature, governmental information, technical report, research information network, EAGLE, JICST

* 日本科学技術情報センター (〒100 千代田区永田町2-5-2) Tel.03(3581)6411
JICST (5-2, Nagatacho 2-chome, Chiyoda-ku, 100)

1. 会議の概要

1993年12月13日～15日の3日間にわたり、オランダのアムステルダムにあるRAI コンgressセンターで「第一回灰色文献国際会議 (First International Conference on Grey Literature)」が開催された。

この会議は、EAGLE (European Association for Grey Literature Exploitation) の主催、日本のJICSTと米国のNTIS (National Technical Information Service) の後援により開催されたもので、欧米諸国、アフリカ諸国および日本から、約200名の出席者が参加した。

登録参加者は、オランダ72名、米国25名、英国21名、ドイツ13名、アフリカ諸国10名、日本8名、その他を加えて合計197名で、その所属は、政府機関、国際機関、大学、図書館、民間大手出版会社などであった。

会議の開催主旨は、灰色文献に関する全ての情報の収集と整理およびこの分野における調査と研究の振興にある。

会議は、全体セッションとクラスターセッション (ビデオセッション) に分かれ、全体セッションは、運営委員会 (EAGLE, FID, IFLA, JICST, KNAW; Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences, LC, NTIS で構成) により選定された15件の論文のみが本会場での発表を許された。

全体セッションの選定にもれた論文は、ビデオテープ放映のみのクラスターセッションにおいて、計26件の論文発表が行われた。

本稿では、全体セッションで発表された論文のみを紹介する。

2. 開会講演

Dr. P. A. J. Tindemans

オランダ教育・科学省研究・科学政策局局长

ここ数年の間に灰色文献の役割や意義が大きく

変化している。最近の電子技術の進展が、急速に灰色文献の増加を促し、ある意味では、電子掲示板のような電子機器の利用の増加が、情報の灰色化に拍車をかけていると言える。科学情報の流通は、だんだん形式化されない会話形式の直接コミュニケーションのような性格が強くなってきている。そのため、情報の寿命は短くなっている。

さらに、科学者はデスクトップ出版のように、自分の出版物を簡単に発行することが可能になっている。

次に、Alvin M. Weinberg (米国国立Oakridge研究所元所長: 1963年のWeinbergレポートで有名) および彼の科学政策についても言及した。科学情報を扱う政府の役割についての彼の教訓は興味深く、政府が科学情報を伝達する手段について関心を持つべきと考えていた。

Weinbergは情報活動振興の熱心な支持者で、情報の重要性について指摘していた。情報活動に対する責務は、しばしばみられる研究所の経営上の武器ではなく、研究開発の武器になるべきであるとの考えであった。Weinbergレポートの発行の後には、オランダの情報関係者の活動は活発になった。

最近の情報活動の進展においても、彼の考え方にさかのぼることができる。ちょうど1年前、オランダの教育・科学省は科学技術情報の提供手段の構築方法に関して、情報は貿易や産業と同様に科学にとって必要不可欠なものであるとの彼の考え方を、議会に表明した。政府にとって、情報分野における関係機関間の協力および調整を積極的に推進することが重要である。

オランダ政府の新しい情報政策のキーポイントは次の3点である。

- (1) 教育・科学分野において情報は必要不可欠であるので、大学および研究機関における情報政策は、最も高水準に策定されるべきである。
- (2) 政府傘下の機関において、協力およびネットワークリングは、官僚組織より優先されるべきである。Weinbergは既に「政府による支配」の差し迫った危険性に警告を発していた。

(3)機関間協力においては、革新性、合理化および効率に重点を置かねばならない。

3. 全体セッション

3. 1 全体セッション I The Producers and Publishers of Grey Literature (灰色文献のプロデューサーおよび出版者)

司会：坂本現意 (JICST, 日本)

Grey Literature : establishing a clear identity (灰色文献：明確な定義の確立)

C P Auger

(Peter Auger Research Services, U. K.)

灰色文献の定義を、「通常の書店ルートでは、容易に利用できない文献で、確認・入手することが困難な文献」と定義した。例えば、研究開発レポート、科学技術資料の翻訳物、博士論文、会議資料、会議プロシーディング、政府および地方自治体の出版物等。

灰色文献の国家レベルでの収集、データベース、広報サービスに関し二つの実例を紹介した。一つは、英国 British Library Document Supply Centre のケースと、もう一つはハノーバー (ドイツ) の Technische Informations Bibliothek (TIB) のケースである。

灰色文献に関する協力、システムの互換性、提供等の流通メディアの開発につき、2 グループに焦点を当てた努力の必要性を示した。

第1のグループは、灰色文献の発生源としての著者および機関で、関係当局へ寄稿する動機づけが必要である。また第2のグループは、灰色文献の利用者で、ユーザフレンドリーな利用システムを必要としている。

A New Generation of Grey Literature : The Impact of Advanced Information Technologies (灰色文献の新世代：先端情報技術のインパクト)

Bonnie C. Carroll
(NASA Scientific and Technical Information Program, USA)
Gladys A. Cotter
(Information International Associates, Inc., USA)

過去10年以上にわたり世界各国で示された、灰色文献の定義あるいは記述について述べた。一般的に、これらの定義は、通常の民間出版会社により出版されていない資料および簡単には見つけられない資料、あるいは見つけられても容易に利用できない資料を意味している。

また、科学技術流通手段における大きな変化をもたらしている三つの主要な技術的要因について示した。

第1は、ハードウェアの低価格化とPCのパワーアップ化、第2は、電気通信の飛躍的進歩と経済成長手段への投資の重要性認識、第3は、これらの技術的進歩によるデータ処理量の飛躍的増大である。

さらに、Internet や High Performance Computer において創出される灰色情報の新しい形態についても言及した。WAIS (Wide-area Information Servers) データベースや WAIS サーバー、また Fedworld (US Federal Bulletin Boards へのゲートウェイ)、LISTSERVs 等の電子掲示板分野における急速な進歩を例示し、より多くの情報を自由に利用できる技術革新がより多くの情報を灰色にし、見つけるのが困難な状況をもたらしていることの皮肉な現象を示していることを説明した。

Aerospace and other Grey Literature from NATO

George W. Hart (AGARD/NATO, France)

NATO の航空宇宙および科学技術情報に関する技術レポート、会議プロシーディング等灰色文献を出版している AGARD (NATO's Advisory

Group for Aerospace Research and Development) の起源, 使命について述べた。

また, AGARD の 9 専門分野からなる組織およびパネルが実施するシンポジウム等の会議運営についても解説した。

さらに, AGARD の CD-ROM を含めた出版物を例示して紹介し, 米国, 英国, フランスの販売代理店での入手方法を紹介した。

Electronic publishing : Theory and Praxis (電子出版 : 理論と実習)

Arnoud de Kemp
(Springer Verlag, Germany)

電子出版に関する前処理, 蓄積, ディスプレイ, 提供等の現状および将来方向を示した。また, 資料管理, コピーサービスおよび著作権法等にも言及した。

The Characteristics of Grey Literature as originated in Japan (日本における灰色文献の特徴)

小原満穂 (JICST, 日本)

灰色文献を, 通常の販売ルートでは利用できない非機密資料との定義づけを行い, 特定の読者向けの出版, 特定グループでの流通, 非売品などの特徴があることを述べた。

次に, 日本における様々な灰色文献の例を示した。例えば, 各種委員会報告書, 政府機関の調査報告書, 技術レポート, シンクタンクの調査報告書, 企業の技報, 学会会議プロシーディング等。

また, JICST, NACSIS, 国立国会図書館等におけるオンラインによるデータベース, CD-ROM, 出版物等の利用方法について詳しく説明した。

さらに, 灰色文献の円滑な流通のためには, 政府機関間の情報流通を活発化させること, アクセスポイントの確立および増加等が必要であることにも言及した。

3. 2 全体セッションII Information Networks, Intermediaries, and Information Centre (情報ネットワーク, 仲介機関および情報センター)

司会 : Christian Lupovici (INIST, France)

Access to administrative Grey Literature : The French Experience (行政における灰色文献へのアクセス : フランスの場合)

P. Buffet (INSEE, France)

フランスの政府機関により発生する, 一般には販売していない非売レポート (灰色レポート) の, より幅広いアクセスを可能にするためのシステム確立を試みている CCDA (Commission de Coordination de la Documentation Administrative) の実験を紹介した。

実験方法としては, 参加政府機関が一般的書誌データを付加したレポートリストを INIST/CNRS および仏ドキュメンテーション協会へ送付し, 両機関がデータベースにインデキシングするためのレポートを請求する。このレポートは両機関によりマイクロフィッシュに作成され, それぞれのデータベース (PASCAL, FRANCIS および LOGOS) に収録され, 一般の利用に供される。

次のような実験結果が報告された。

- 1) 実施した運営委員会の役割の重要性。
- 2) 本システムが行政により発行された灰色レポートの実数把握には良いプロジェクトであること。
- 3) 政府機関が INIST, 仏ドキュメンテーション協会へ選定のためのレポートリストを送付するシステムは, 実質的で, 安価および適用しやすいシステムであること。
- 4) 本システム実施中のレコード複製上のリスクは, 最少であることが確認されたこと。

Academic Libraries and Collection Development Implications for Grey Literature (大学図書館と灰色文献収集拡大についての関係)

Julia M. Gelfand
(University of California, USA)

灰色文献の学術的価値が増大するに従い、モノグラフ、逐次刊行物、データファイル等と同様に、重要な情報源としての灰色文献を収集に加える収集拡大政策が増えている。大学図書館における灰色文献の収集拡大とアクセスの提供との問題点等について詳しく述べた。

Description of Grey Literature : Demand for Standardization (灰色文献の記述：標準化の必要性)

Ulrike Keil (FIZ-Karlsruhe, Germany)
Irmgard Lankenau
(FIZ-Karlsruhe, Germany)

灰色文献の著者、出版会社、データベース作成機関、ライブラリアン等のタイプ別に、標準化(規格)の適用およびその必要性について述べた。

適用すべき規格として、ISO 5966 1982, ISO 10444, COSATI/CENDI/INIS/SIGLE 規則などを挙げ、ISO 5966 1982 については、標題頁、抄録、目次、ドキュメント・データシート等につき解説を加えた。

さらに、ETDE/ENERGY データベース、AGRIIS, SIGLE 等に有効な IAEA-INIS-1 (Rev. 8) について標題、著者、機関名、レポート識別記号、図表等を説明した。

Acquisition of Grey Literature : Results of A. U. S. Interagency Workshop (灰色文献の入手：米国機関間ワークショップの報告)

Thomas F. Lahr
(NASA Scientific and Technical Information Program, USA)
Bonnie C. Carroll
(Information International Associates, Inc., USA)

1993年9月に米国で開催された「外国灰色文献へのアクセスの改善」というテーマのワークショップの報告である。

灰色文献のアクセスおよび管理における下記に示す主なテーマについて述べた。

- ・灰色文献と灰色情報の違い
- ・無料情報と自由アクセス情報の違い
- ・ジャスト・イン・タイムとジャスト・イン・ケースの違い
- ・Internet の発達と灰色文献の増加
- ・研究情報ネットワークによる双方向通信の増大
- ・対象主題による灰色文献の定義の変化

さらに、灰色文献入手における下記のトピックスについても解説した。

- ・スコープと価値
- ・専門情報源
- ・外国情報源
- ・知的所有権問題
- ・調査および情報源
- ・新技術(ネットワーク環境およびネットワーク上の操作改善ツール)

Grey Literature Revisited : The Southern African perspective (灰色文献：南部アフリカの展望)

M. M. Moshoeshoe-Chadzingwa
(The National University of Lesotho, Lesotho)

南部アフリカ諸国(アンゴラ、ボツワナ、レソト、マラウイ、モザンビーク、ナミビア、南アフリカ、スワジランド、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ)の図書館における地域に関連した灰色文献の現状について述べた。

情報発生源としては、中央政府および地方自治体、国連・英連邦等の国際機関、地域・国際 NGO および学術研究機関等がある。

問題点として、灰色文献デポジット法、資金不足等につき説明し、今後の見通しについても言及した。

3.3 全体セッションIII Supply and Demand of Grey Literature : the End-User (灰色文献の需要と供給：エンドユーザ)

司会：A. Rahman Khan
(NTIS/OSTP, USA)

Grey Literature and the Author/Respondant Relationship (灰色文献：著者と利用者との関係)

H. M. Artus
(Informationszentrum Sozialwissenschaften,
Germany)

ドイツ、オーストリア、スイスの1,600名の社会科学者と共に実施した、社会科学情報センター(ボン, ドイツ)における灰色文献に関する調査報告である。

実験データは、奇妙で矛盾した状況を示した。

すなわち、発行者側が灰色文献の普及をできる限り努力しても、灰色文献に対する意見のフィードバックが受け取り側からほんの少ししか得られなかったことである。

結論として得られたことは次の点である。

- (1)我々は、灰色文献の出版・改訂プロセスを正確には理解していない。すなわち、普通考えているプロセスとは異なっていることを意味している。
- (2)非公式な伝達プロセスが、通常我々が考えているものと異なっている。
- (3)意見のフィードバックがない人々の方が、この計画のやり方等を理解していた。

Value and use of Grey Literature : the Implications of networked Publishing (灰色文献の価値と利用：ネットワーク出版との関係)

J. S. Mackenzie Owen
(Helderman, Brinkers and Mackenzie Owen
Consultants, Netherlands)

コンピュータネットワーク技術の発達により、

電子出版が灰色文献の最も重要な出版形態の一つになりつつあり、灰色文献の価値もますます増大するものとみられる。すなわち、コンピュータネットワーク技術が安価な情報利用手段の提供を可能にする。また、コンピュータネットワーク技術が、地理的な制約もなく、迅速な情報の提供を可能にする。

また、ネットワーク出版における灰色文献の将来についても述べた。Internetの発達により、灰色文献の発行および利用が増大することである。このことにより、ネットワーク出版と灰色文献が通常の出版会社と激しい競争をすることになる。灰色文献がネットワーク出版へ移行しないようであれば、将来のエンドユーザとはリンクできなくなり、灰色文献の価値は急激に減少することになる。さらに、灰色文献の将来のネットワーク技術が、図書館形態を収集ベースからアクセスベースへと機能的変質に影響を及ぼすことである。

最後に、灰色文献の普及に関係する機関に対して、その使命は、資料の収集、収録、索引、提供ではなく、灰色文献の潜在的価値を社会に利用してもらうことにありと結論づけている。

The U. S. Government Technical Report and Aerospace Knowledge Diffusion : Results of an On-Going Investigation (米国政府技術レポートおよび航空宇宙情報の提供：実施中の調査報告)

Thomas E. Pinelli
(NASA Langley Research Center, USA)
A. Rahman Khan (NTIS/OSTP, USA)
Rebecca O. Barclay
(Rensselaer Polytechnic Institute, USA)
John M. Kennedy (Indiana University, USA)

米国政府の技術レポートの歴史、特徴、発達につき説明した。

次に、米国連邦政府資金で実施している研究開発プロジェクトの技術移転と技術レポートの役割につき、技術移転の普及モデルを示して解説した。

この普及モデルは、研究グループ間コンタクトの非公式ルートと「プロデューサーからユーザへ」の移転プロセスを形成する情報プロデューサー、仲介業者、代理機関等から成る公式ルートの二つの部分から構成されている。

さらに、米国政府の技術レポートと航空宇宙情報の提供につき AIAA 会員（約34,000人）を対象に実施した次の二つの調査結果を報告した。

- (1) 米国政府の技術レポートの利用と機関および計量社会学的変数との関係
- (2) AGARD, DOD, NASA レポートの利用および重要性

この結果、次の結論が示された。

- (1) 米国政府の技術レポートは、研究用に最も利用されており、マネジメントのための利用も増加している。一方、教育、調査のための利用は減少している。
- (2) 米国 DOD, NASA レポートの利用しない最も多い理由は、「自分の研究には適切でない」と「自分の学問分野には利用できない」であった。
- (3) 情報の品質と DOD, NASA レポートのデータの正確さは、高く評価された。
- (4) 最も多く選ばれた利用方法は、「出版物に引用」と「仲間による参照」が最も多く、「データベースによる検索方法」が第2位、「紹介雑誌によるプロデューサ手段」が第3位であった。

Using Grey Literature in informal Information Service in Africa (アフリカにおける非公式情報サービスでの灰色文献の利用)

Paul Sturges

(Loughborough University, U. K.)

アフリカ6か国（シエラ・レオネ、タンザニア、ベニン、セネガル、ボツワナ、ジンバブエ）における健康、衛生、小児看護、クラフト、栽培等の分野での特別作成資料によるコミュニティ情報サービスの現状について報告した。

Supply and Demand of Grey Literature. The Case of Japanese Governmental Information (灰色文献の需要と供給：日本政府情報の場合)

U. Wattenberg (GMD, Germany)

ドイツの GMD が、ドイツ政府に提供している灰色文献、特に日本の場合を、Wattenberg の日本での経験を含めて報告した。

まず、日本の政府情報の現状について紹介し、日本政府から提供されている「白色文献」を国立国会図書館のリストにより示し、また MT 等電子媒体による統計データ提供機関の説明があった。

また、政府情報資料センターから出版している『政府資料抄報』の状況を解説した。

次に、JICST の JICST-E データベース、日本建設情報センター (JACIC) のデータベース、海外広報協会の日本情報ネットワーク (JIN) 等を例示し、灰色文献に関するデータベースを説明した。

結論として、次の点を挙げている。

- (1) 政府の「白色文献」の他に、灰色文献も多数存在する。
- (2) 灰色文献へのアクセスは、簡単ではないが、不可能でもない。継続してアクセスするためには、東京の駐在員事務所の役割は重要である。
- (3) スタッフに関しては、駐在員事務所の所長は、少なくとも提供される国のネイティブであるべきである。

4. 展 示 会

本会場に隣接して展示会場が開設され、下記機関がブースを設営し、参加者に対して PR、デモンストレーションを実施した。日本からは JICST のみの展示会参加であった。

また、会議間には、マーケティング・プレゼンテーションが実施され、各機関から個別に発表が行われた。

- ・ JICST
- ・ BRS (BRS Software Products)

- ・ EAGLE
- ・ EBISCO (EBISCO Subscription Service Europe)
- ・ EI (Engineering Information Inc)
- ・ FID/ITC
- ・ JUPITER (Netherlands Library Consortium)
- ・ NTIS/NASA
- ・ NBOI (Netherlands Current Research Information Agency)

5. 所 感

5. 1 パラダイム変革

灰色文献と電子媒体, ネットワーク, 特に Internet を通した灰色文献の流通の重要性についての指摘が何件かあった。つまり Internet を通じて研究者間で情報を交換できるようになれば, 灰色文献の概念が大きく変化していくというのが, その考えである。主な内容は次の通りである。

- (1) Internet を通じて灰色文献が流通し, かつ Internet が情報の大きな流通媒体として認識され, 利用されるならば, 灰色文献は灰色文献でなくなるのではないかとということ。
- (2) これとは逆に, Internet 等により大量の情報を自由に利用できる技術革新がより多くの情報を灰色にし, 見つけるのが困難な状況をもたらしていること。
- (3) 情報化が進み, 論文, レポート以外にも, 画像, 音声などの他のメディアも灰色になるものがあり, これらを統合したマルチ・メディアを対象とすれば, 灰色文献は灰色情報となる概念が示されたこと。
- (4) 研究者が自己の研究成果, 表現を直接電子媒体化し, ネットワークで直接流通させ, これ

が大きな流れになっていくなれば, 既存の出版会社に対して大きな影響を与えていくと予想されたこと。

- (5) 灰色文献の普及に関係する機関の使命として, 単に灰色文献の収集, 提供にとどまらず, その潜在的価値を社会に利用してもらうことにまで言及したこと。

5. 2 欧州, 米国の積極的姿勢

灰色文献そのものは, 欧州で生まれた用語であることもあり, 欧州は勿論のこと米国も灰色文献の流通に関しては, 技術レポートを中心として, 積極的姿勢をみせている。特に, 政府による情報公開政策という観点から, 灰色文献の流通に関して強い関心を持っている。

また, 米国と欧州では灰色文献に対する定義に相違がみられる。つまり, 米国は政府関係の資料を灰色文献の中心として把握しようとしているのに対して, 欧州はそれより広くとらえようとしているようである。今回は, この定義, 範囲等に対する認識の調整が必要とされると思われる。総体的にみれば, 欧米の議論の中心は, 政府関係の技術レポートにあると言える。

5. 3 灰色文献の広がり

会議への参加者は, 圧倒的に欧米の情報専門家が多かったが, 日本を含めたアジア, 東欧からの参加者もあり, 世界的な広がりがみられた。目立った点は, アフリカ諸国からも10名の情報専門家が参加するとともに, 図書館の整備, 地域コミュニティの整備といった情報流通に関する発表があった。灰色文献に関する認識, 関心が, 欧米, 日本だけではなく, 着実に世界的に拡大しているということが言える。